

お客様へ全身全霊 恩返し

ある偉大な指揮者が体調不良で突然降板し、その日のコンサートを秘蔵っ子に託した。観客は、プーイングを浴びせ、会場から出て返金を求める者と、代演を温かく好奇心を持って迎え入れ、会場に残った者に分かれた。一方、秘蔵っ子の心境はどうか。観客が去っていくのを背



ある。

中で感じながらも、たった一人でも残っているなら、と全身全霊をかけてタクトを振ったに違いない。

このレベルには到底及ばないが、私も似た経験をしたことが



10年以上前のこと。ある週、訳があり、先代の職人に代わって私がお作りしますがよろしいですか、とお断りを入れると、ほとんどの場合「あなたが作るならキャンセルで」と言われた。直接言われると、なかなか堪えた。銀行に走り、預かり金の返金処理を繰り返すと、今後どうなるのだろうと生きた心地がしなかった。

しかし、途方に暮れている場合ではなかった。全てがキャンセルではない。チャンスを与え

万年筆職人

山本 竜さん (47) ⑤

てくださった方々がいらっしゃる。そんな方々のために、もっといいものを作らなくては。感謝の気持ちをエネルギーに変え、がむしゃらに仕事をした。365日は休まず、日に14時間以上工房にこもった。昨日より今日、今日より明日。気づきと進化を求めて。努力はいつか必ず報われる。明日の自分を信じて。

ペンはおうただのお飾りだね。素晴らしい」

オーバーな表現とはわかってはいるが、うれしくて涙が止まらなかった。

その後、年に2回上京する度に食事を一緒にさせていただき、次の注文をくださり、今ではもう数えきれないほどのお客様を次々に紹介くださった。

ある日、「あなたに注文したい」と神奈川からわざわざお越しくださったお客様があった。名指しで注文をいただくのは初めてだった。ある程度のご要望を伺うと、「あとは自由な発想でお作りになってみてください」と、短時間でお帰りになられた。

私にとって、お客様とは私の人生の応援者であり、私のなすべきことは、「仕事」というものを超えた、全身全霊をかけた恩返しなのだと思うようになった。忘れてはならない、いや、忘れようのないことだ。

「万年筆を200本持っているけど、あなたに作ってもらったのが一番書きやすいよ。他の

やまもと・りょう 1974年生まれ。2008年から鳥取市にある有限会社万年筆博士の代表取締役。顧客の書き癖に合わせたカスタムメイド万年筆を製作している。納品まで約1年かかるが、世界中から愛好家の注文が集まる。